

幼研だより

【発行所】

久留米市幼児教育研究所

久留米市荘島町11番地1

(総合幼児センター2階)

電話 (0942) 35-3812

創刊：昭和54年5月15日

久留米市幼児教育研究所

所 長 谷 崎 和 一 郎

令和6年度も本研究所事業のより一層の充実を図って参ります。どうぞよろしくお願いいたします。

本研究所の発達相談事業の登録者数は、令和5年度は543人で令和4年度から20人程度の増加がみられました。また、総利用者数(延べ人数)は、9,659人で令和4年度から734人の増加がみられました。本年度も利用者の増加が予想されますので、療育学級や訓練の受け入れ体制を工夫しながらできる限り多くの子どもや保護者に支援を提供していきたいと考えています。

適切で見通しのある支援の提供

本研究所では「言語」「行動」「作業」の3つの訓練と2歳児以下、年少、年中、年長の「療育学級」での支援を行っています。適切な支援を提供することで、こどもの現在の園生活や家庭生活での適応を目指しています。

療育学級での支援 ～ あそびの中で身につけるソーシャルスキル ～

- ◆ 遊びには、こどもの発達に必要な内容が数多く含まれており、あそびに熱中する中でこどもは様々なことを身につけていきます。本研究所では、あそびの中で「ソーシャルスキル」の向上を図っています。4、5月の年少、年中、年長のある日の療育の様子をご紹介します。
- ◆【年少学級】では、親子ふれあい遊びを取り入れていました。開級式直後のまだ対人意識が十分になく、コミュニケーションの基礎を作っていかなければならない子どもたちが対象のクラスの様子です。親子ふれあい遊びを通じて、親子の愛着形成を促し、親、さらには療育指導員(保育者)への意識を高め、子どもとの相互性を高めます。それは、コミュニケーションの基礎となり、療育を開始するための基盤となります。
- ◆【年中学級】では、「つりゲームを」行っていました。マジックテープが付いたハンマーのような道具でねらった魚を釣り上げます。この学級は、言葉の発達がゆっくりで、自分の行動をコントロールすることが苦手な子どもたちのクラスです。今回は、つりゲームを通じて「療育指導員に道具を借りに行く」や「ワクワクする気持ちを抑えて歩いて借りに行く」をねらいに行っていました。感情のコントロールや集団で活動するために、「貸して」と相手に伝える。「順番を守る」などのソーシャルスキルを取り入れていました。また、発達に課題を持つ子どもたちの多くが、協調運動の苦手さを持つことがあります。このクラスではつりゲームを通じて手指の巧緻機能の向上もねらいに入れていました。
- ◆【年長学級】では、「アイスクリーム屋さんでの買い物ごっこ」を行っていました。年長児になると園生活の中でも保育者からの指示が増え、またお友達との相互的なやり取りも多くなります。訪問したクラスはまだ言葉の発達も十分なくお友達とのコミュニケーションも難しい子どもたちでした。「療育指導員が行う買い物のルールをしっかりと聞いて理解ができる」がねらいとなり、視覚的な補助を使ったり実際のやり取りのモデルを療育指導員が見せたりしながら集団の中で指示を注目して聞く(理解すること)をねらいに行っていました。また、お店屋さんは療育指導員が行いますが、「〇〇ください」と自分から声をかける、もらったら「ありがとう」と言うなどのソーシャルスキルが取り入れられていました。

令和6年度 幼保小合同研修推進事業

- ◆ 研究テーマ「幼保小接続カリキュラムの構築」（3年目・最終年）
- ◆ 実践
 - ・ビデオカンファレンスによる個の学び・育ちの検証
 - ・実践事例集としての接続カリキュラムの作成

令和5年度は、年間3回の幼児教育研究推進委員会の開催、1回のワーキングチームの開催及び久留米市の6つのブロックで2回の連携担当者会の開催、そして1月に講師を招いて合同研修会を行いました。おかげさまで、実践数の増加、ビデオカンファレンスによる子どもを見る目の向上を図ることができました。

本年度も幼児教育研究推進委員会を中心に有意義な研修が各ブロックで行われるように事務局として事業の推進に当たっていきます。

令和6年度 第1回幼児教育研究推進委員会ワーキングチームでの協議内容

6月17日（月）に第1回幼児教育推進委員会が出された検討事項についてワーキングチームで協議を行いました。決定事項は以下の通りです。各ブロックの第1回連携担当者会で確認してください。

＜ビデオカンファレンスによる個の学び・育ちの検証＞

- ・動画撮影の場面 → 一人を撮影するよりも複数で遊んだり学習したりする場면을撮影し、その中で個に焦点化して学びや育ちを見取る。
- ・動画撮影の媒体
 - スマートフォン、パソコン、タブレット、ビデオカメラ等で5分程度の動画を撮影する
 - 第2回ブロック担当者会で動画を視聴できる機器を持参する。機器は小グループでの交流の際に使用するので、なるべく画面が大きいものがある。
- ・個人情報保護 → 保護者の了承を得る。詳しい内容は、各施設の取り決めによって確認する。

＜実践事例集としての接続カリキュラムの作成＞

- ・実践記録シート（様式3）と接続カリキュラムシート（様式4,5）の作成 → 実践記録シート（様式3）のみを作成する。様式3の最下段の枠に幼保小のつながりについて気づいたことを記入する。

◆ 療育共同研修 ◆

本年度も本研究所の療育指導員が保育所等のニーズを踏まえた研修を行います。

昨年度は、こどもが気になることや物を「刺激」として捉え、刺激を減らした環境の工夫についてご紹介しました。（幼研HP掲載中）

本年度は、療育学級の実践の中から、制作の手順書や遊びのルールイラストなど、保育所等での支援に使えるような具体的なツールをブラッシュアップしてお知らせしたいと考えています。お知らせは、幼研HPに定期的に掲載していく予定です。

◆ 本年度の発行物・行事等 ◆

- ❖ 幼研だより・・・年3回発行
- ❖ にじのかけ橋・・・1月下旬（※1）
- ❖ にじいろの一と相談会・・・12月25,26日（※2）
- ❖ 子育て講演会・・・6月15日（土）（※3）
- ❖ 子育て講演会・・・8月31日（土）（※4）

※1は、小学校生活を紹介したリーフレットです。

※2は、就学先へお子様のことを引継ぎする際に使用するノートの書き方についての相談会です。

※3は、市内の保育所、幼稚園、こども園の職員が対象です。子ども保育課と共同開催で行います。

※4は、本研究所に通所している保護者が対象です。